



10月号

平成29年9月29日

横浜市立東中田小学校

校長 天野 直美

TEL.802-0500 FAX.801-4089

WEBページ <http://www.edu.city.yokohama.jp/sch/es/higashinakada/>

あこがれと努力

校長 天野 直美

9月9日、マーチングクラブが「ジャパンカップ全国大会」に出場しました。今年度の部員は61名。3年生から6年生までの児童です。演目は「光と影～ミュージックフロムベートーベン」です。ベートーベンのピアノソナタ「悲愴」と「月光」、交響曲第5番「運命」と第9番「歓喜」をアレンジしたこの曲は誰もが知っている旋律であるため、私は「完璧に演奏しないといけない。大変だな。」と思いながら指導者の米谷先生と鈴木先生に同時に聞いてみたところ、「見通しをもって指導しているので、いつもこの時期はこんな感じです。」と答えが返ってきたので、子どもたちと先生方に期待して、校長室の窓から見守っていました。そのうち自分でも演奏してみたくなり、家で分厚いベートーベンソナタアルバム楽譜を引っ張り出して、何十年かぶりで「月光」を弾いてみました。学生の頃、テクニク的に第1楽章は簡単で第3楽章は難しいと思っていましたが、今回弾いてみて、第1楽章の難しさに気付きました。弾き始めの一音目の出し方や、3連符の連続の上に旋律をつなげて浮き出たせること、3連符をなめらかに冷静に弾き続けることなど至難の業の連続です。子どもたちの演奏では3連符は鍵盤打楽器が、そして旋律はブラスセクションが担当します。最初の頃の演奏は、正直「^{がくおん}楽音」ではなくただ打点を合わせているだけの「^{おと}音」でした。さらにドリルフォーメーションの練習もあります。私も高校生の時に経験しているので、演奏しながら動く事の大変さは分かっています。ドリルに集中すると音が途切れたり、動きが分からず小走りについていく3年生の姿が見られたりしました。「小学生だから無理しないで、出来るだけでいいのでは。」と思っていましたが、子どもたちも先生方も、へこたれませんでした。サポートの保護者の皆さんも冷静かつ熱心に見守ってくださいました。厳しい暑さの中、夏休みの練習を経て、演奏と演技はみるみるグレードアップしてきました。

会場の千駄ヶ谷「東京体育館」まで、貸し切りバスで移動しました。会場に着く間、バスの中で子どもたちはマウスピースを使っている合奏の最中、突然車窓の景色に「あ！東京タワーだ！」「おお！すごい！」と大歓声をあげていました。これから本番だというのに、くったくのない明るい子どもたちの姿がいいな、と思いました。

いよいよ本番です。私は真正面の特等席から子どもたちの演技を見ました。「月光の出だし、3連符大丈夫かな。」と心配でした。しかしピッチのずれもなく、静かに美しく演奏がスタートしました。ホッとしました。6分間の演技が終了し、子どもたちの顔にはやり遂げた安堵感で笑顔がにじみ出ていました。

結果は2位でした。「シーズンの好スタートが切れて、本当によかった。努力したからね。」帰りのバスに乗る前のミーティングで子どもたちにそう話しました。

マーチングクラブの挑戦はこれからも続きます。子どもたちがあこがれる、より成熟した演奏・演技のためにさらなる努力の日々が続きます。今回の経験から子どもたちは「努力が必要」という事をあらためて感じていると思います。子どもたちの努力の日々を支えながら、成長を見守ってまいりたいと思います。

～困難な何事かを克服するたびに、私はいつも幸福を感じます。～ ベートーベン